

皮膚科

後期研修

目的と特徴

医師としての全般的な基本能力の修練を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・診断・治療の技術を取得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高めます。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者さんと医師との共同作業としての医療の推進に努めます。また、医師としてまた皮膚科医として、医の倫理の確立につとめ、医療情報の開示など社会的要望に応えます。

※下記HPに詳細に掲載されていますのでご覧ください。

<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~skin/education2.html>

■研修期間、年次スケジュールとその達成目標

卒後 1-2 年目 :	初期研修に伴うスーパーローテート			日本皮膚科学会の正会員になれば、皮膚科専門医研修期間に算定されます。
3 年目 :	入局・皮膚科 後期研修医（専門修練医）			他施設の卒後研修終了者も受入れます。 数ヶ月～1年間の京大附属病院での研修、その後関係病院へ（場合によっては、関係病院での皮膚科研修が先になることもあります）。
4-5 年目 :	関連病院勤務			原則として、皮膚科専門医（指導医）のいる病院に勤務
6 年目以降	京大病院での勤務	関連病院での勤務	大学院への進学	<p>大学院進学に関しては、個々人の進学希望を尊重しており、毎年、3～4名程度の進学者がいます。大学院での研究期間は4年間となります。</p> <p>大学院進学の際には、京大皮膚科にて研究する選択肢以外に関連する京大の基礎医学系研究室や他科の臨床研究室にて研究する選択肢、さらに京大以外での基礎医学研究室にて研究する選択肢もあり、進む方面は多彩です。</p> <p>ただし、スーパーローテーションで半年間皮膚科を研修した場合には、3年目から関係病院勤務になることがあり、その場合には5年目からの大学院進学を可能とする場合があります。</p> <p>大学院で進学しない場合は、関係病院での勤務（数年単位で研修先が変わることによって様々な指導医のもと指導を受ける場合が多い）や Senior Resident として研修を積みます。</p>
9 年目以降 :	関連病院での勤務	留学	大学での教育職	<p>留学に関しては、常時、大学院終了数年以内の3～4名程度が留学しています。</p> <p>大学での教育職については、大学院修了後、留学終了後、あるいは関係病院勤務後となります。</p>

■ 3年目の京大病院での病棟研修（専門修練医）について

- 病棟医長1名、副医長1名および医員の指導のもと、入院患者さんの全般的ケアを多面的に学びます（入院患者さん1名に対して、1名の専門修練医と1名の指導医の少なくとも2名が担当する体制をとります）。
- 北病棟18床、南病棟に3床の計21床を有します。皮膚悪性腫瘍、皮膚潰瘍、炎症性皮膚疾患、膠原病、皮膚・軟部組織感染症などの症例が中心です。
- 手術症例については、指導医の執刀に立ち会い手術手技の指導を受けます。
- 毎週のカルテ回診において、患者さんの治療方針について病棟担当医全員で討論する機会をもち知識を深めます。また、毎週の教授回診においても、教授を含めた皮膚科スタッフ全員で治療方針を確認・検討することによって、さらに知識を深めます。
- 外来研修においては、予診、検査や処置を担当することを通して、多彩な皮膚疾患に対する知識や手技が獲得できるようになります。また、毎週の外来カンファレンスで、診断や治療が困難な外来症例について検討、討論する機会があります。

■ 専門修練医を対象とした具体的な教育活動

教室カンファランス	毎週 水曜日	15：30～17：00
病棟カンファランス（カルテ回診）	毎週 月曜日	16：00～17：00
病棟回診	毎週 火曜日	15：00～16：30
外来回診	毎週 水曜日	13：30～14：30
外来手術	原則 木曜および金曜日	午後
	毎週 火曜日	午前
病棟手術	原則 月曜日	全日
研修医向け講義	不定期	

診療科目の体制

京都大学医学部附属病院皮膚科（2010年7月1日現在）

教授：1名、准教授：1名、講師：2名、助教：5名

医員：2名、専門修練医：5名

産学連携研究員：1名、大学院生：12名、研究生：2名、留学生：1名

実験補助：2名、秘書：2名

診療科の主な症例と症例数（またはベッド数）

外来診療統計

平成 21 年

初診患者総数	3,324 人
受診患者総数	27,866 人
初診率	11.0%
患者紹介率	42.0%

皮膚科専門外来概数

平成 21 年

初診	3,068 人
アトピー性皮膚炎	2,435 人
光線過敏症	65 人
乾癬	1,368 人
接触皮膚炎	248 人
脱毛症	2,004 人
皮膚外科	2,675 人
褥瘡	473 人
静脈瘤	288 人
水疱症	389 人
膠原病	437 人
真菌症	834 人
皮膚潰瘍	1,068 人
蕁麻疹	542 人
皮膚リンパ腫	267 人
皮膚そう痒症	1,021 人
ざ瘡	508 人
角化症/母斑症	268 人
結合組織疾患	226 人
その他	12,731 人
皮膚神経	19 人

皮膚科 Day Surgery 部門統計
平成 21 年

静脈瘤硬化術	10 件
皮膚腫瘍摘出術	
（良性腫瘍）	165 件
（悪性腫瘍）	51 件
センチネルリンパ節 生検	9 件
その他	8 件

入院患者統計

平成 21 年度

皮膚潰瘍	29 人
皮膚悪性腫瘍	72 人
水疱症	16 人
膠原病	10 人
乾癬	8 人
アトピー性皮膚炎	9 人
細菌感染症	28 人
ウイルス感染症	33 人
薬疹	10 人
静脈瘤	8 人
良性腫瘍	5 人
リンパ腫	5 人
アレルギー検査	7 人
円形脱毛症	20 人
その他	50 人

取得できる認定医・専門医

皮膚科専門医・皮膚悪性腫瘍指導専門医・美容皮膚科指導専門医・アレルギー専門医

他科研修の可能性

あり

留学の可能性

あり

関連大学病院等

滋賀医大、関西医大、神戸大、和歌山医大

関連病院での研修

あり

・関連病院一覧

京都府

京都医療センター
医仁会 武田総合病院
洛和会 音羽病院

大阪府

田附興風会 北野病院
大阪赤十字病院
大阪府済生会 中津病院

兵庫県

兵庫県立尼崎病院
公立豊岡病院

滋賀県

大津赤十字病院
長浜赤十字病院

奈良県

天理よろづ相談所病院
大和高田市立病院

福井県

福井赤十字病院
公立小浜病院

和歌山県

日本赤十字社和歌山医療センター

岡山県

倉敷中央病院

後期研修修了後の進路

大学院進学、関連病院勤務、大学医員

教授からのコメント

全国の医学生、研修医のみなさんに、京都大学皮膚科から入局への熱いメッセージを送ります。

いま皮膚科学は旧来の記載皮膚科学を脱却し、分子生物学から臨床皮膚科学までを網羅した壮大な学問体系になりました。その進歩の息吹を皆さんにも感じていただき、一緒に皮膚科学を楽しんで欲しいと思います。皮膚科学は皮膚という臓器をターゲットに、その内科も外科も病理もすべて専門領域とする診療科です。数年の臨床研修の間に、自分の興味の対象を決めて自らのサブスペシャリティーとすることができます。

現在、教室には皮膚アレルギー、皮膚外科、光生物学、皮膚発癌、皮膚分子生物学、膠原病、皮膚再生・毛髪生物学など多彩な専門性を持った人材が臨床や研究に励んでいます。皮膚科研修は、多様性を許容する自由な雰囲気の中で、しかも多くの先輩の包容力に育まれて培われるべきものです。京都大学皮膚科はみなさんの皮膚科学への情熱に応えられるだけのパワーとエネルギーに満ちています。

この数年、京都大学皮膚科には毎年10名以上の入局者がありますが、半数以上が女性であり、他大学出身者です。見学に来られた方には、必ず私がお会いして直接お話しをするようにしていますので、担当教官である鬼頭昭彦先生にお気軽にメールでお問い合わせ下さい。

また、卒後臨床研修必修化に伴い、今後は前期卒後臨床研修を修了したみなさんを、皮膚科専門医取得にむけた後期臨床研修の一環としてお迎えすることになると思います。私自身も天理よろづ相談所病院でレジデントを経験してから皮膚科医を目指しました。また、研修医向けの月刊誌「臨床研修プラクティス」の編集主幹も務めていますので、研修目標や到達点を明確にしなが、個々の能力に応じた、EBMに基づく臨床決断学を教育する姿勢を堅持していると自負しています。

気力と体力と野心にあふれたみなさんの入局を熱烈に歓迎します。

京都大学皮膚科学教室 教授 宮地良樹